

佳作

豊かな社会のために

新潟県三条市立第三中学校

3年 伊丹 莉奈

毎日のように疲れてベッドに倒れ込む。午後 10 時。右手にあるものは自分のスマホ。いつも寝る前に SNS を見てしまう私は、今日も慣れた手つきで SNS を開く。体は重くて動きそうにないのに、スマホを持つ手だけは器用に動く。

SNS を開くとそこには大量の情報が存在する。有名なアーティストや俳優、はやりの音楽やそれに合わせて踊る女子高生たち、自宅のペットのかわいさ、世界にある美しい場所、最近起きたさまざまなニュース、おすすめの生活雑貨やインテリア、受験生向けの勉強方法、挙げればキリのない情報たちは、人間の数など比べものにならないほど存在するだろう。

そんな溢れた情報たちをぼうっと見つめる。毎日日課のように行っていれば、流れてくる内容の多くは自分の興味が惹かれるものになる。流れてきてはスクロール。時々高評価をつけたりコメントをのぞいたりする。今日もいつもと同じ動作を繰り返す。

なんとなくコメントを眺めていけば、肯定的な言葉も、否定的な言葉も流れてくる。「かわいい」「かっこいい」「面白い」「役に立った」「きれい」こういった肯定的なコメントはこちらも見ていて共感できてうれしくなる。しかし、否定的なコメントはどうにも攻撃的で傷つけることを目的とした言葉が多い。「うざい」「きも」「おもんない」「無意味すぎる」「もう投稿すんな」どれも明らかにアンチコメントといわれるものばかりだ。自分に向けられた言葉ではないとわかってはいても、思わず顔をゆがめてしまう。

SNS はコメントに返信も可能だ。肯定的なコメントには投稿者が感謝の言葉を述べているが、否定的なコメントは投稿者ではない他のアカウントがとがめる言葉を送っている。これらコメントは、多くの人に見えてしまっているんだろうなと思いながら、ふと気がついた。そうだ、投稿者にも全てが見えてしまっているのだ。

投稿者は自分に対する否定的なコメントをどう思うだろう。悲しんで、枕をぬらした人がいるかも知れない。怒りで気持ちを落ち着けることができなかった人がいるかもしれない。苦しんで人と会えなくなってしまった人もいるかもしれない。アンチコメントに耐えきれず、この世を去ってしまう人がいたというニュースは、近年誰もが知るところだ。音もせず、顔も見えず、手のひらに収まりはするが、果てしのない広い世界の中で、たまたま出会った人が出会い

頭に心をたやすく切りつける。刃を生み出す源も、また人なのだ。だからこそ、私たちの心ひとつで世界は変わるはずだ。自宅にしながら指1本で顔を見たこともない相手を傷つけることができる反面、その指で、その技術で、私たちは誰かを救うこともできるはずだ。

ほんの少しの理性で自分を含め、誰かの人生を変えるということをおののかが自覚するべきだと思う。SNSの誕生により、世界は近くなった。異国のさまざまな暮らしや文化に触れ、考えを広げ深めることもできる。私たちはだれかを傷つけるためではなく、だれかを幸せにするために出会い、つながるべきだ。そして協力し合い、豊かな未来を創るために、この技術を使っていくべきだ。

私は吹奏楽部に所属しているが、SNSと音楽は似た部分があると感じている。楽器は一つ一つ出る音が違う。また同じ楽器であっても、演奏者一人ひとりの個性によって奏でるメロディーが違う。お互いに主張がぶつかり衝突してしまうこともある。しかし音楽をつくる時は皆、お互いの音を聴き合い、相手とともにあることを意識しながら奏でている。一人ひとりが出す音や個性が違うからこそ、一つになった時、たてようのない感動が生まれる。

まだ知らない誰かとの本当のつながりを求め、出会いを大切にしていきたい。そして、それぞれの個性を生かし、尊重し合って豊かな未来をつくっていききたい。まずは自分の声で、明日友達と話し合ってみよう。